

序章 複式簿記と記帳技術の基礎

簿記(bookkeeping)

特定の経済主体に属する財産の増減変動の事実と原因を継続的に記録し、集計（計算・整理）する技術

簿記の種類

(1) 複式簿記と単式簿記

- ・ **複式簿記(double entry bookkeeping)**：すべての取引を一定のルールに従って二面的に記録する簿記 **財産の管理と損益計算**を同時に行う簿記
- ・ 単式簿記(single entry bookkeeping)：複式簿記ではない簿記法

(2) 商業簿記・工業簿記・銀行簿記...

- ・ **商業簿記**：商業（商品売買業・サービス業）で行われる簿記
 - ・ **工業簿記**：工業（製造業）で行われる簿記
 - ・ **銀行簿記**：銀行で行われる簿記
 - ・ :
 - ・ :
- } 業種の違いによる分類

複式簿記の目的

記録（当在高）と事実（実在高）の照合 } 財産の浪費・不正使用の防止、係争時の証拠
原因記録の分析

営業活動による財産の増加額（利益）の計算
財務諸表(financial statements)作成のための資料提供

小 遣 帳

平 × 年	成 年	摘 要	受 入	支 払	残 高
4	1	母より送金。	40,000		40,000
	2	散髪代		3,000	37,000
	"	太田君に誕生祝を贈る。		5,000	32,000
	5	アルバイト収入。	10,000		42,000
変動の原因の記録			事実の記録		結 果 (事実の集計)

簿記の前提条件

- ・ 会計単位：簿記が記録の対象とする経済活動の範囲
- ・ 貨幣金額による計算

第1章 資産・負債・資本と貸借対照表

貸借対照表

- ・ _____ (Asset) : 財貨(モノ・カネ)・債権 など (一般に財産といわれているようなもの)
- ・ _____ (Liability) : 債務 など

債権 : ある特定の人に対して一定の行為を請求する権利

債務 : ある特定の人に対して一定の行為をなすべき義務

資産の例 : 現金、^{うりかけきん}売掛金 (売上代金の未収額)、商品、建物、車両、備品、土地など

負債の例 : 借入金、^{かいかけきん}買掛金 (仕入代金の未払額) など

資 産 - 負 債 = _____ (Capital, Equity)

(マイナスの場合は債務超過という)

資 産 = 負 債 + 資 本

簿記ではマイナスの使用を避ける (負数忌避) !

_____ (balance sheet; _____)

一定 _____ の資産・負債・資本の一覧表 (財政状態)

資 産	金 額	負債及び資本	金 額
現 金	300,000	借 入 金	1,000,000
備 品	350,000	資 本 金	3,500,000
車 両 運 搬 具	850,000		
建 物	1,000,000		
土 地	2,000,000		
	4,500,000		4,500,000

資産・負債・資本の増減と純利益

東京商店の1年間(×年1月1日～×年12月31日)の営業活動

得意先茨城商店の商品等を運搬し、運送料¥3,000,000を現金で受け取った。(サービスの提供)

→ **資産(現金)の増加 資本の増加**

A銀行からの借入金¥1,000,000を現金で返済した。

→ **資産(現金)の減少 負債(借入金)の減少**

A銀行に対して、借入金の利息¥50,000を現金で支払った。(サービスの消費)

→ **資産(現金)の減少 資本の減少**

車両運搬具の燃料費¥500,000を現金で支払った。(財の消費)

→ **資産(現金)の減少 資本の減少**

事務用の備品¥200,000を購入し、代金は現金で支払った。

→ **資産(備品)の増加 資産(現金)の減少**

車両運搬具を購入し、代金は現金で支払った。

→ **資産(車両運搬具)の増加 資産(現金)の減少**

B銀行から現金¥800,000を借り入れた。

→**資産（現金）の増加 負債（借入金）の増加**

従業員に給料¥1,600,000を現金で支払った。（サービスの消費）

→**資産（現金）の減少 資本の減少**

資産・負債・資本の変動表（単位：千円）

		【 資 産 】				= 負債 + 資本		
		資 産				負債	資本	
		現金	備品	車両運搬具	建物	土地	借入金	資本金
期首	300	350	850	1,000	2,000	1,000	3,500	
	+ 3,000						+ 3,000	
	- 1,000					- 1,000		
	- 50						- 50	
	- 500						- 500	
	- 200	+ 200						
	- 400		+ 400					
	+ 800					+ 800		
	- 1,600						- 1,600	
期末	350	550	1,250	1,000	2,000	800	4,350	

当期純利益：営業活動による資本の純増加額

$$\text{当期純利益} (\text{¥}850,000) = \text{期末資本} (\text{¥}4,350,000) - \text{期首資本} (\text{¥}3,500,000)$$

（マイナスの場合は当期純損失）

		東京商店		貸借対照表		平成×年12月31日		単位：円	
		資	産	金	額	負債及び資本	金	額	
期末資産	現金			350,000		借入金	800,000		} 期末負債
	備品			550,000		資本金	3,500,000		
	車両運搬具			1,250,000		当期純利益	850,000		} 期末資本
	建物			1,000,000					
	土地			2,000,000					
				5,150,000			5,150,000		

期末（決算）貸借対照表では、資本金は期首資本の金額と当期純利益を別個に表示する

【章末問題】

岡山商店の平成×年1月1日（期首）と平成×年12月31日（期末）の資産、負債は、以下のとおりであった。これにより、期末貸借対照表を作成しなさい。

平成×年1月1日（期首）

現金 ¥650,000 備品 ¥300,000 車両運搬具 ¥400,000 借入金 ¥350,000

平成×年12月31日（期末）

現金 ¥250,000 普通預金 ¥400,000 備品 ¥500,000 車両運搬具 ¥750,000

借入金 ¥700,000

第2章 収益・費用と損益計算書

B / S	
資 産	負 債 資 本 金
	当期純利益 ← 当期純利益が生じた原因？

- ・ _____ (Revenue) : 営業活動 (財・サービスの提供) による資本の増加原因
- ・ _____ (Expense) : 営業活動 (財・サービスの消費) による資本の減少原因

当期純利益(¥850,000) = **収益** (¥3,000,000) - **費用**(¥2,150,000)
 (マイナスの場合は当期純損失)

費用 + 当期純利益 = 収益 (負数忌避)

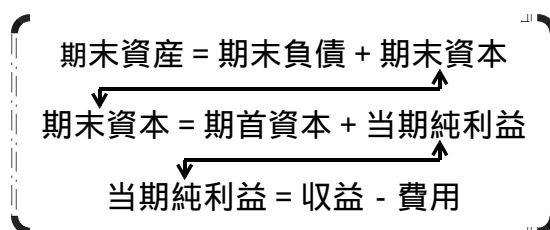
損益計算書			
東京商店 自 平成×年1月1日 至 平成×年12月31日			
費 用	金 額	収 益	金 額
支払利息	50,000	運送料収入	3,000,000
燃料費	500,000		
給料	1,600,000		
当期純利益	850,000		
	3,000,000		3,000,000

_____ (profit and loss account [英] _____, income statement [米])
 一定 _____ の収益・費用・純利益 (または純損失) の一覧表 (経営成績)

当期純利益 (または当期純損失) の二面的計算

財産法 B / S : 期末資本 - 期首資本 = 当期純利益 (純損失)

損益法 P / L : 収益 - 費用 = 当期純利益 (純損失)



期中に追加元入 (出資) または引出があった場合
 期末資本 - (期首資本 + 追加元入 - 引出) = 当期純利益 (純損失)

【章末問題】

(1) 岡山商店の平成×年1月1日 (期首) から平成×年12月31日 (期末) までに発生した収益・費用は、次の通りであった。これにより、損益計算書を作成しなさい。

運送料収入 ¥2,800,000 給料 ¥1,700,000 燃料費 ¥570,000 広告宣伝費 ¥300,000
 支払利息 ¥30,000

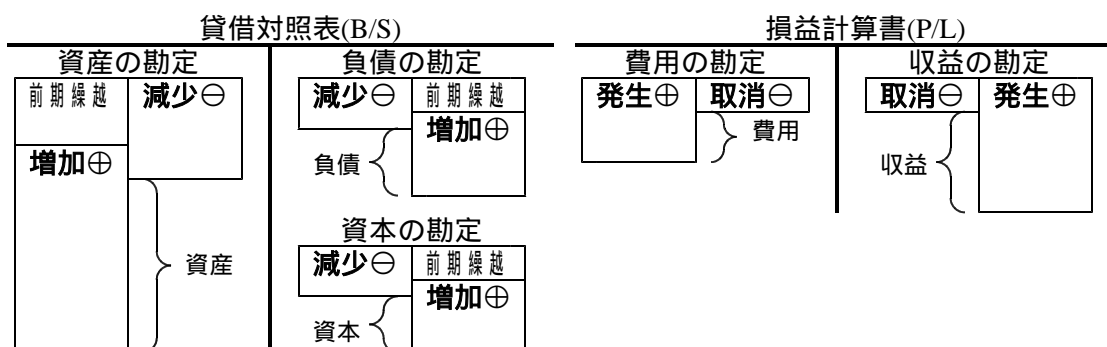
勘定の貸借記入原則（簿記・会計という事業の言語の文法）

期末貸借対照表：資産 = 負債 + 資本金 + 当期純利益

当期純利益 = 収益 - 費用：損益計算書



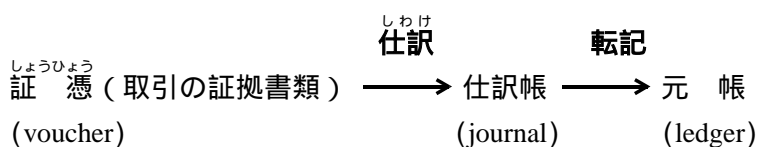
$$\begin{array}{c} \text{資産} + \text{費用} = \text{負債} + \text{資本金} + \text{収益} \\ \begin{array}{c} + \quad - \\ + \quad - \\ - \quad + \\ - \quad + \\ - \quad + \end{array} \end{array}$$



取引要素の結合関係



第4章 仕訳帳と元帳 仕訳と転記



_____ (journalizing)

取引が発生したとき、どの勘定に記入するのか？、借方・貸方のどちらに記入するのか？ いくらで記入するのか決定し、これらを一定の形式に基づいて帳簿(_____)に記入する手続

仕訳帳の役割

- ・ 取引の日記（取引発生順の証拠記録）
- ・ 勘定記入の準備および正確性の確保

_____ (posting)

仕訳帳の仕訳をもとに、_____の勘定口座へ記入する手続

元帳の役割

- ・ 財産の管理 (資産・負債の勘定)
- ・ 資本・損益の計算 (資本・収益・費用の勘定)
- ・ 貸借対照表・損益計算書の作成に必要なデータの提供

仕 訳 帳

3

平 × 年	摘 要	元 丁	借方	貸方
×	(A B)	11	100	
	(C D)	25		100

学習上の略式の仕訳

(借) A B 100 (貸) C D 100

意味：『元帳の11ページのA B勘定の借方に100、25ページのC D勘定の貸方に100記入せよ！』

もとちょう

元丁欄：該当する勘定のある元帳のページ数を記入

元 帳

A B (標準式) 11

C D (略式) 25

平 × 年	摘 要	仕 丁	借方	日付	摘 要	仕 丁	貸方
×	C D	3	100				

x/x AB 100

摘要欄：仕訳の相手勘定を記入 (複数ある場合には「諸口^{しよくち}」と記入)

仕丁欄：該当する仕訳のある仕訳帳のページ数を記入

第5章 試算表

_____ (trial balance ; T/B)

：貸借平均の原理を利用した勘定記入 (転記) の正確性の検証手段
(貸借平均の原理を犯さない誤りは発見できない)

仕 訳 帳

1

平 × 年	摘 要	元 丁	借方	貸方
×	(A B)	1	100	
	(C D)	2		100
×	(A B)	1	80	
	(E F)	3		80
×	(C D)	2	70	
	(E F)	3		70
×	(E F)	3	60	
	(A B)	1		60
			310	310

元帳 (Tフォーム)

A B	1	C D	2
100	60	70	100
80			
E F	3		
60	80		
	70		

合計試算表
平成×年×月×日

借方	元丁	勘定科目	貸方
180	1	A B	60
70	2	C D	100
60	3	E F	150
310			310

↑ 一致 ↑
↑ ↓
仕訳帳合計額

残高試算表
平成×年×月×日

借方	元丁	勘定科目	貸方
120	1	A B	
	2	C D	30
	3	E F	90
120			120

↑ 一致 ↑

合計残高試算表
平成×年×月×日

借方		元丁	勘定科目	貸方	
残高	合計			合計	残高
120	180	1	A B	60	

第6章 決算手続(closing entry)

決算の手順

試算表(T/B)の作成(前述)

棚卸表の作成(後述)

決算整理(後述)

損益振替(収益・費用の諸勘定を損益勘定へ振り替える)

→ 収益・費用の諸勘定が貸借平均し、損益勘定に収益と費用が集計される

資本振替(損益勘定の貸借差額“当期純利益または純損失”を資本金勘定へ振り替える)

---> 損益勘定で当期純利益または純損失が計算され、資本金勘定は期末資本の額となる

残高振替(資産の勘定および負債の勘定・資本金勘定の残高を残高勘定へ振り替える)

---> 資産の勘定および負債の勘定・資本金勘定が貸借平均し、残高勘定も貸借平均する

仕訳帳・元帳の締切

損益計算書(P/L)・貸借対照表(B/S)の作成

振替: ある勘定から他の勘定へ金額を移動すること

X勘定の借方の金額をY勘定の借方に振り替える場合

複式記入(double entry) X勘定の貸方に記入し、Y勘定の借方に記入する

元帳の勘定口座に記入(転記)するときは、必ず仕訳帳で指示(仕訳)をすること!

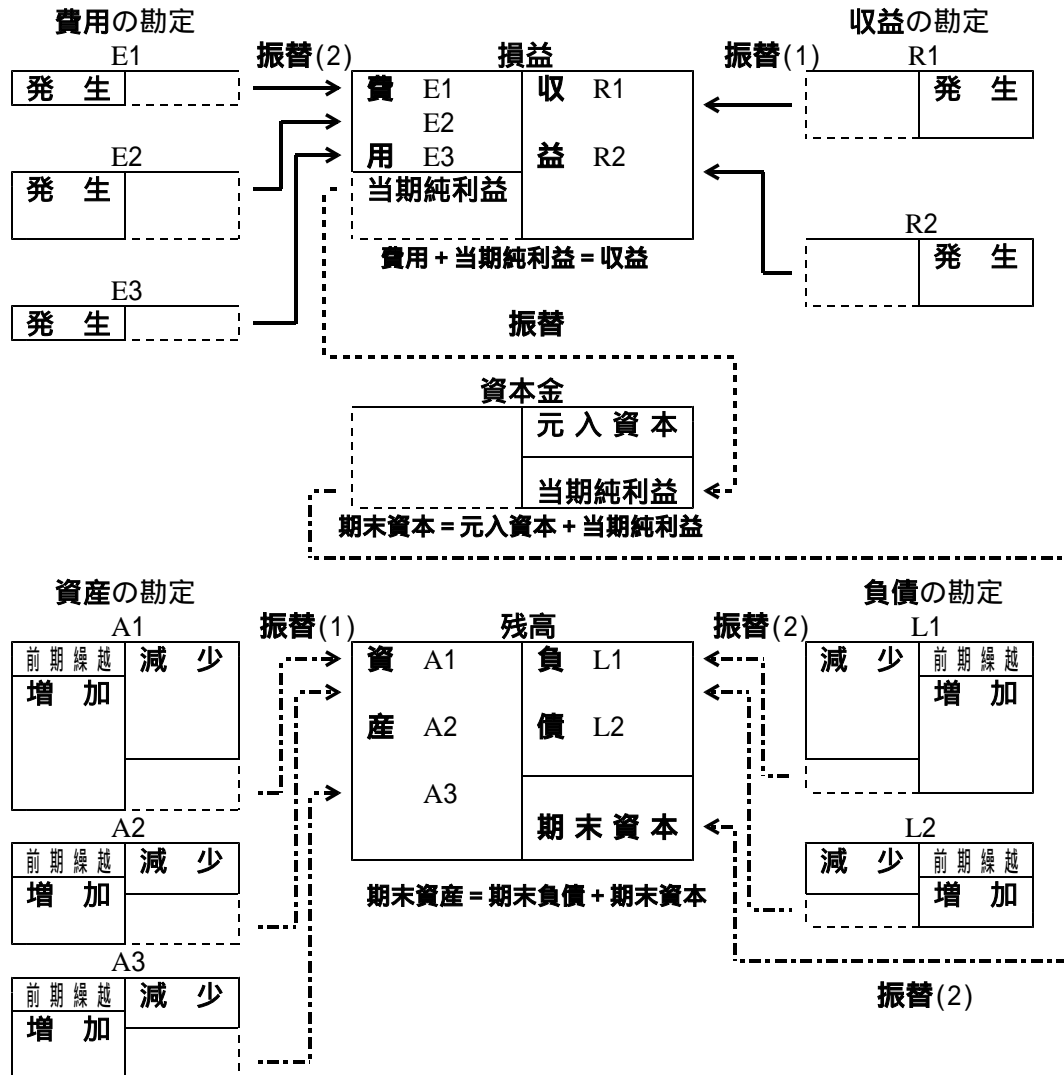


〔例〕 X勘定の借方残高¥10をY勘定の貸方に振り替える

振替仕訳 (借) Y 10 (貸) X 10

X	Y
50	10
40	10
10	

【決算の図解】



損益振替仕訳

(1) (借) R 1	× ×	(貸) 損益	× ×
	R 2		× ×
(2) (借) 損益	× ×	(貸) E 1	× ×
		E 2	× ×

資本振替仕訳 (当期純利益の場合)

(借) 損益	× ×	(貸) 資本金	× ×
--------	-----	---------	-----

当期純損失の場合 (費用 > 収益) の場合は、貸借反対の仕訳となる

残高振替仕訳

(1) (借) 残高	× ×	(貸) A 1	× ×
		A 2	× ×
		A 3	× ×
(2) (借) L 1	× ×	(貸) 残高	× ×
	L 2		× ×
	資本金		× ×

財務諸表の作成 - 決算報告手続

<u>元帳</u>	<u>財務諸表</u>
損益勘定	→ 損益計算書
残高勘定	→ 貸借対照表

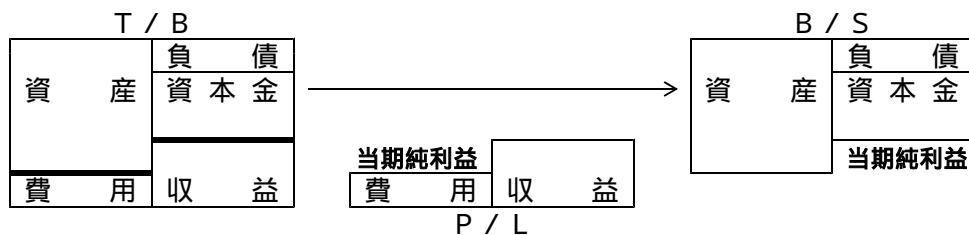
6 欄**精算表**(worksheet : W/S) : 複雑な帳簿の決算手続を誤りなく行うための準備作業

精算表の仕組み

精 算 表 平成 × 年 × 月 × 日

勘定科目	元丁	残高試算表		損益計算書		貸借対照表		
		借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	
資産の勘定	省 略	1,580	-----	-----	-----	→ 1,580		
負債の勘定			500	-----	-----		→ 500	
資本の勘定				1,000	-----	-----		→ 1,000
収益の勘定				350	-----	→ 350		
費用の勘定			270	-----	→ 270			
当期純利益				80			80	
		1,850	1,850	350	350	1,580	1,580	

残高試算表(T/B)と損益計算書(P/L)・貸借対照表(B/S)の関係



簿記の目的